

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート						No.	24-2																																							
PDCA	主要事業名	公共交通対策事業	部課名	建設部都市計画課	担当 内線	榊原 447																																								
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 4 - 2 - 3 単位施策： 移動環境 全体事業期間： 令和 5 年度 ～ 5 年度 全体事業費等： 189,758 千円 会計 一般会計 歳出科目： 07.05.01.03.50					目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用																																								
	事業概要等	事業概要： 市民の移動手段の1つとして公共交通バスの運行を維持確保するもの。地区路線A「ごんくる」・地区路線Bの運行と基幹路線バスへの運行経費等補助のほか、交通空白地域の解消に向けた取組の実施を図る。																																												
		事業目的： 少子高齢化や単身世帯増加など時代背景から予測される移動需要の高まりを見据え、市民の暮らしの足の維持、確保を目的とする。																																												
		事業内容： 地区路線A・Bの運行、バス事業者への運行経費等補助、交通空白地域の解消に向けた取組、公共交通会議の運営と広報、バス環境維持整備、半田市地域公共交通計画の策定（更新）を実施する。																																												
		問題点・課題等： 限りある財源の範囲で、市内全地域から一定の満足度と納得感で評価いただく効率的な運行の仕組みや路線の確立が課題となっている。																																												
	予算額	主要事業とする理由																																												
	189,758 千円	移動しやすい環境は、豊かで活力のある市民生活を支える基盤であるため。																																												
	財源内訳	得られる成果																																												
	市費 181,258 千円	公共交通バス環境の維持と向上により市民の暮らしの足を確保することで、だれもが生活しやすいまちづくりにつながる。																																												
	国費 0 千円	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">目標値や目指すべき状態</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">市内路線バス利用者数</td> <td>実績値</td> <td>919.0</td> <td>931.0</td> <td>—</td> <td>人/日</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1,012.0</td> <td>1,113.0</td> <td>1,209.0</td> <td>人/日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">その他</td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					目標値や目指すべき状態		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	市内路線バス利用者数	実績値	919.0	931.0	—	人/日	目標値	1,012.0	1,113.0	1,209.0	人/日		実績値					目標値					その他	実績値					目標値					
	目標値や目指すべき状態		令和3年度	令和4年度	令和5年度		単位																																							
	市内路線バス利用者数	実績値	919.0	931.0	—		人/日																																							
		目標値	1,012.0	1,113.0	1,209.0		人/日																																							
		実績値																																												
		目標値																																												
その他	実績値																																													
	目標値																																													
県費 0 千円																																														
その他 8,500 千円																																														
D 実績値と得られた成果	決算額	得られた成果																																												
	161,600 千円	基幹路線バスへの運行経費等補助や既存路線だけでなく、路線バスの導入が適さない地域でのバス以外の交通手段の継続により、市民の移動の足を確保維持することで、暮らしの基盤として貢献した。																																												
	市費 145,012 千円	成果指標																																												
	国費 8,088 千円			令和5年度	単位																																									
	県費 0 千円	市内路線バス利用者数	実績値	1,033.0	人/日																																									
	その他 8,500 千円		目標値	1,209.0	人/日																																									
C 課題の整理	事業の評価・課題	C 指標であるバス利用者数は、規模の大きい基幹2路線の伸びが小さかったことが影響し、目標には未達であったものの、全路線で前年度よりも利用者が増加した。平成30年以降に導入を開始した地区路線A、Bでは、全ての路線で過去最高値を記録した。これは令和4年度下期に実施した無料乗車キャンペーンによる利用の底上げ効果やコロナ禍で妨げられていた路線成長の再開が寄与したものと考えられる。ただし、その中でも伸びが乏しい地区路線B瑞穂線については、住民意見をとりまとめた改善案に基づき、令和6年4月からの新路線運行を決定した。基幹2路線では、夜間のニーズ調査と利用促進を兼ねて最終便以降に移動手段を追加確保する夜間運行キャンペーンを令和5年10月から5か月間の金・土限定で試験的に行った。また、交通空白地域の解消に向け、横川地区でおでかけタクシー制度の実証実験を行い、令和6年4月からの本格導入を決定した。																																												
A 課題の解決に向けた方向性	今後の事業の方向性	拡充推進 引き続き利用者数の底上げを目的に、地区路線A亀崎・有脇線の路線改善を行う。改善においては、移動手段の変更も視野に入れ、地域住民と協働して取り組む。令和7年4月開院の知多半島総合医療センターへの移動手段確保では、市内、市外から、より安価で利便性の高い公共交通手段で訪問できるよう、交通事業者及び、常滑市と調整を進める。																																												
	観点別評価	必要性	有効性		効率性																																									
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある																																								
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更																																									
	③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—																																									